

平成28年度第3回大阪都市魅力戦略推進会議 議事概要

日時：平成28年8月12日（金）14:00～15:30

場所：大阪府咲洲庁舎2階 咲洲ホール

出席委員：溝畑会長、佐藤副会長、相原委員、近藤委員、橋爪委員、山本委員

オブザーバー：関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所

〔開会〕

〔戦略（案）の全体構成〕

○資料1により、事務局から説明

〔戦略（案）の全体構成についての審議〕

■相原委員

○案全体について、まとめ方は分かりやすくなっている印象。

■近藤委員

○大阪のブランド力を向上させ、アジアの中でのプレゼンスを高めていくという基本的な方向性においては、このまとめ方で良いのではないかと。

■佐藤副会長

○方向性は良いが、大阪が目指すものと現状のイメージが乖離しており、その差をどう埋めていくかを真剣に考え、戦略が絵に描いた餅にならないようにすること。魅力のコンテンツも、住民が支えないものに海外の方は注目しない。2020年までに、特に文化について、住民の意識も高められるよう取組みを進めるべき。

■橋爪委員

○細かい指摘だが、資料1の1ページ、DMOに関する注記について、DMOという言葉はまだ一般的でないため英語表記を追記すべき。

○7ページの重点取組で、「次の3つの視点から重点取組を設定し、2020年に向けて重点的に取組みを推進します」とあるが、意味が重複している。全体的に、文言の精査を進めること。

○案全体については概ね了。1ページ目の図にある交流人口の拡大は大事なポイント。

■山本委員

○伝統芸能だけでなく大阪の文化力を発信し、都市魅力向上の取組みを推進していきたい。

■溝畑会長

○コンパクトに分かりやすくまとまっている。細かい文言等については今後調整することとし、事務局案でとりまとめを進めていくことで了解。

〔目指すべき都市像にかかる KPI 及び数値目標〕

○資料 2-1～4 により、事務局から説明

〔KPI について部会長からの補足ならびに審議〕

■相原委員【スポーツ部会】

○部会では様々な意見があったが、分かりやすさを重視。「アジアをリードする国際・プロスポーツ都市」では、7つのプロチームを有することが大阪の強みと考え主指標に設定。「健康と生きがいを創出するスポーツに親しめる都市」では、成人のスポーツ実施率が全国に比べ大阪は低いことを踏まえ、「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率」を主指標とした。副指標は記載のとおりで、様々な視点により達成度を総合的に見ていきたいと考える。

■近藤委員【国際化戦略部会】

○「大阪で学ぶ留学生数」について、今後どう伸ばしていくかを部会で議論した上で、取組みを着実に進め達成するとの姿勢で目標数値を設定。海外で学ぶ大阪の学生数については副指標に設定し、両面から大阪の国際化の度合いを計っていく。

○「出会いが新しい価値を生む多様性都市」の指標は、何を以て多様性の度合いが測れるか難しく、部会でもかなり議論したところ。結論として、外国人の方が活躍しているという点をシンプルに捉え、「大阪で働く外国人労働者数」としてはどうかと考えた。

■橋爪委員【文化振興会議】

○文化については、前回の説明のとおり。

■溝畑会長【観光・都市魅力部会】

○世界における大阪のプレゼンス向上が重要との考えにより、森記念財団の「世界の都市総合ランキング」を副指標に追加。

○「来阪外国人旅行者数」の前提条件として、国が「明日の日本を支える観光ビジョン」で訪日外国人旅行者数を大幅に上方修正しており、大阪においても、国の動向、府域の宿泊施設整備計画等の状況、為替リスク等を総合的に加味し数値目標を出すべき。

○「来阪外国人旅行消費額」は旅行者数の目標設定により決まるが、今回の戦略では経済性・生産性を高めるという点もポイントとしていることを考慮したい。同じく「延べ宿泊者数」も旅行者数の設定により決定。その他副指標については、例えば外国人旅行者のニーズが高い Wi-Fi 整備等について設定している。

■山本委員

○大阪観光局が大阪版 DMO 候補法人に登録されたことから、今後観光分野の取組みが拡大されることを期待。我々も留学生と一緒に、海外の方に大阪をどう楽しんでもらえるかをテーマにした問題解決型ワークショップのような取組みを始めようとしているところ。

■佐藤副会長

○これまでの方向性を引き継ぎ目標数値を設定するものと、今回大幅に目標値を高めて設定するものが混在している印象。住民の目線を大事にすべきと考えるので、住民の参加を計る何らかの指標があっても良い。府民を巻き込んだ盛り上がりがないければ、戦略の実現化は困難だろう。

■橋爪委員

○先ほど指摘した「世界に誇れる自慢の都市」の意味の重複について、それを踏まえて、より強調するために使うのであれば良い。また、交流人口の拡大が今回の戦略の大事なポイントで、キラークンテンツの創出という視点から様々な施策と組み合わせることを意識し、図にあるような好循環を促進していきたい。

○「アジアをリードする国際・プロスポーツ都市」で集客人数を KPI に設定しているが、どの水準に達すればアジアをリードすることになるのか。ベンチマークをどこに設定するのかで、目標が明確化される。目標数値の 360 万人が、他都市と比較したなかでどの位置にあるのかが見えない。

○森記念財団のランキングは、年度によって調査対象の都市も変わるので、相対的な順位を見るべき。例えば大阪の 28 位というのは、あくまでサンプルしている都市のなかでの限定的な順位。

○「来阪外国人旅行者数」については、高めかつ分かりやすい数値という点から案 4 で良いのでは。

■溝畑会長

○指標を設定する上で、他都市と比較した上での立ち位置を考えること、また経済性を重視することを事務局にはお願いしたい。「外国人旅行者数」「外国人旅行消費額」「延べ宿泊者数」については、政策的な判断等最終的なすり合わせが必要なので事務局預かりとし、その他の目標数値は事務局案のとおりとさせていただく。

■大阪商工会議所（オブザーバー）

○一経済団体として、経済性、消費額・市場の拡大、多様な人材交流によるイノベーションといった点を戦略へ反映いただきたい。また、取組みを実行するにあたって様々なハードルがあると思うが、各組織・団体の役割分担を明確にし、連携を強化し進めていきたいと思う。

■関西経済連合会（オブザーバー）

○非常に良い戦略案をまとめていただいたと思う。その上で 2 点。まず 1 つめに、網羅的にまとめられたプロジェクトについて、対外的にどう発信していくかが重要。例えば、個人的には大阪の水辺は良くなったと実感しているが、府外から大阪のブランドと思われているか。予算等限りがあるなかで、施策を連携させ一体的に取り組むことが重要という印象。

○2つめに、魅力ある文化・観光拠点の形成で挙げられている重点エリアと他のエリアをどうリンクさせていくか。例えば MICE 拠点や IR 構想のある湾岸エリアと、中之島や大阪駅周辺の重点エリアのつなぎ方。これについては、経済界でも検討を進めてまいりたい。

■関西経済同友会（オブザーバー）

○まず戦略案全体については、ポジティブで前向きな案であると受け止めている。一方で、戦略の内容を実現するにあたっては相当規模の予算とマンパワーが必要と考えるが、実際に進めていけるのかを危惧している。

○これからの大阪の都市魅力を考える上で文化力の向上は特に必要。出来るだけの取組みをしていただきたい。

〔今後のスケジュールについて〕

○事務局から口頭で説明

→事務局説明のとおり進めることで了承あり

〔岡本府民文化部長あいさつ〕

○委員の皆様方には、4月から概ね4ヶ月間にわたり、様々な観点からご意見とご議論を賜り感謝。オブザーバーの皆様方にも感謝申し上げます。

○戦略案の内容が概ね固まったが、事務局預かりとなった数値目標については、キャパシティの問題等について検討し、溝畑会長にご相談の上大阪府・大阪市として最終判断をしていきたい。

○本日のご意見を踏まえ戦略案を取りまとめ、パブリックコメントを実施。また、府議会・市会に十分な説明を行い、成案化に向け進めていく。皆様からのご提案については、出来る限り事業に活かしてまいるとともに、戦略が絵に描いた餅にならないよう具体的な施策展開を図りたい。10月に4回目の推進会議を開催し最終的な議論を賜る予定なので、引き続きよろしくお願いする。

〔閉会〕

■溝畑会長

○第1回会議で、大阪を圧倒的な魅力のある都市にしたいと知事からご挨拶いただいている。この都市魅力戦略推進会議がその一助になることを願い、閉会の挨拶とさせていただく。